

今回は 第5回東海地区模擬国連大会 の報告です。

◇ 関高生2名が第5回東海地区模擬国連大会で特別賞を受賞しました！

企画： 海陽学園 岐阜高校 名古屋高校
日程： 令和3年4月3・4日
参加者： 沖館伽良 後藤雅尚 (アフガニスタン大使)
場所： オンライン参加 (感染症対策を考慮しての開催)
テーマ： 薬物犯罪の防止

◇ 参加した生徒の感想

■私は、4月3日・4日に開催された第5回東海模擬国連にはアフガニスタン大使として参加しました。議題は「薬物規制」、参加した議場は初心者議場でおおよそ25か国の大使が参加しました。今会議は2日間の開催ということで、模擬国連に慣れるため、という意味も込めてペア間での役割分担を行いました。そして、私は今会議において以下の仕事を行いました。

1日目に内政を担当しました。内政の仕事は、主にメモ回しというものを行います。メモ回しというのは、2国間での交渉を担当の係の方を介して紙にメモをして行うものです(本来は対面での開催で先述したようにメモ回しは行われるが、今回は開催の都合上 Zoom のチャット機能を用いて行った)。内政は、自国の政策に賛同してくれそうな国へメモを回して、最終的な目的であるDR(決議文書)のスポンサー国を集めます。また、話し合いを有利に進めていくための交渉も行います。

2日目は外交を担当しました。外交は、名前からイメージする通り、直接各大使と意見を交換し合い、表立って自国の考えを発信していきます。全体への発言が可能となるので、自国の意見を発信していく重要な役割を担います。

そして、以上の役割を通して、私は模擬国連の活動における重要なことに気が付きました。それは積極性です。なぜならば、内政や外交をやる際に、自国の意見を発信することはできず、最悪の場合、模擬国連において最優先すべき自国の利益を守ることすらできないからです。もちろん人の前で発言をすることは緊張しますし、人が話している時に割って入って賛成、反対をいうことはとても勇気のいることですが、一度声を出してみると、そこからはその場の空気感にも馴染み、落ち着いて話すことができるようになります。そして、この活動を通して、自分自身成長できたことが、本当に良かったと感じています。また、今回はフロントから特別賞という賞を頂いたことや自分たちの意見がDRに反映されたことで、達成感に満ち溢れています。そういった達成感を感じられることも模擬国連の良いところです。

今後は、関高校で開催される「中学生模擬国連」に向けて、今回感じたことを中学生の大使へ伝えていきたいと思います。また、模擬国連の運営を円滑に進めるため、今回の模擬国連をもとに企画・運営を進めていきたいと思います。

(沖館伽良)



■私はこの東海模擬国連に参加し、特別賞を受賞したことよりも、大きなことを学んだと思います。その中の一つは、自分の意見をいかに通していくかということです。

今回の議題は薬物規制についてでした。薬物の規制特に私たちの国のような生産国からの流出を防ぐために関税の導入を提案したのですが、それは、輸入を促進してしまうという意見とぶつかってしまいました。そこで私たちはいかに私たちの意見を聞いてもらえるかと、考え様々な例を出しながら、説明しました。その意見は最終的に採用されませんでした、実はそのあとが大切なのです。

模擬国連では、当事国の国益守ることも国際的な協調とともに大事になってきます。そこで我々は、関税の意見を流す代わりにさらに具体的かつ包括的な支援策の要求をしました。具体的には、教育に関する専門家の派遣と、薬物が主要な収入源となっている労働者に対する、代わりとなる職業を開発するための、インフラ整備を要求しました。それらをまず主観でそして国際的（俯瞰的に）見てみないと思いつきませんでした。さらに、我々は、みずからの政策を国際社会に反映するために全体の意見にもイニチアチブをとりながら最後の提案として、薬物防止記念デーに関しての政策を提案しました。それは多くの大使の賛同が得られ、私たちの政策や国益は完全に近い形で守ることができました。それらができたのは最初にも言及した通り、人の意見をいかにして聞きさらに自分の意見について採用してもらえるように、様々な言い回しを利用し発言できたからだと思います。それらは日常の様々な面にも生かれますし、さらには将来のアメリカの大学に進学した時にも討論ベースで行われる、アメリカ大学の授業についていけるのではないのでしょうか。

様々なものを学ぶことができた模擬国連にこれからも参加していきたいと思えますし、そして関高で模擬国連を開催することで、中学生や同じ関高生にも模擬国連を広めていこうと考えています。

(後藤雅尚)

◇ 追記

沖館さん、後藤さんのふたりは、1年次より様々な模擬国連大会に参加しています。2年次に進級する春休みのタイミングで、オンライン開催の東海地区模擬国連大会に参加し、アフガニスタン大使役を務めました。結果、特別賞を受賞し、感想にある通り、多くのことを学んだようです。

その後ふたりは、中学生対象の第2回模擬国連を企画し、運営まで見事にやり切りました(下写真、関ブリッジジャーナル第16号)。

https://school.gifu-net.ed.jp/seki-hs/frh/pdf/joho/r03/2021_sbj_16.pdf

関高校では、週1時間の「総合的な探究の時間」を利用して、1・2年生全員が、SDGsの実現に向けた様々な活動を行っています。課題解決に向けた提案づくりが活動の中心ですが、さらに進んで、模擬国連大会のような実践活動に向かうグループもあります。関高では、さらに頑張るグループを「フロントランナー」と呼び、様々な支援を行っています。

沖館さん、後藤さんが企画・運営した中学生模擬国連以外にも、LGBTQに関するシンポジウム、地元産の農産品を生かした商品提案、観光ツアー提案などが、「フロントランナー」によって行われています。詳しくは関高HP「関ブリッジジャーナル」をご覧ください。

